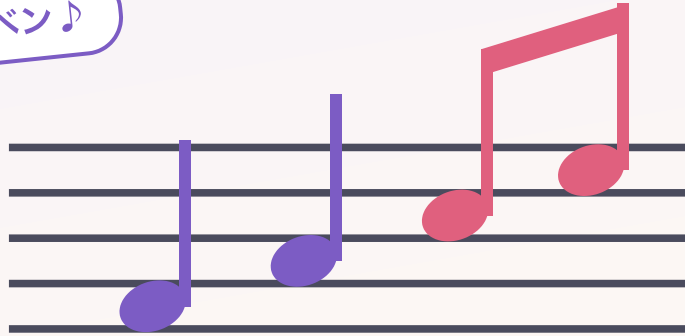




三味線の音、力強い！

三味線

3本の糸が生み出す、はじける音



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょ

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まりま

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

三味線を知る	3～5
演奏の準備	6～9
奏法と表現	10～16
三味線の世界	17～19
練習しよう	20～24
ふり回り	25～30

三味線ってなに？

三味線は、3本の糸を持つ日本の弦楽器です。

三味線（しゃみせん）は、**3本の糸**を持つ日本の弦楽器です。

大きなばちで糸をはじいたり打ったりして音を出します。はじけるような鋭い音と、太くなるような低い音、どちらも出せる楽器です。



三味線が聴こえる場面

民謡

歌舞伎の舞台

お祭り

津軽三味線の演奏会

時代劇のBGM

力強い音から、にぎやかな場面でよく使われています。

ポイント

- 三味線は、3本の糸を持つ、日本の代表的な弦楽器です。
- 江戸時代に広く親しまれるようになり、多くの音楽ジャンルで使われてきました。
- 民謡から歌舞伎まで、幅広い場面で活やくしています。

やってみよう

1. 三味線の音を聴いたことがあれば、どんな場面だったか書こう。

2. 「三味線」という漢字を、指でなぞって書いてみよう。

ワンポイント 「しゃみせん」と読みます。もともとは沖縄の三線（さんしん）が伝わり、日本で形を変えて広まったといわれています。

書いて覚えよう

三味線の各部

三味線は、棹・胴・撥からできています。

三味線の各部の名前

棹（さお）＝細長い柄の部分

胴（どう）＝皮を張った箱の部分

撥（ばち）＝糸を打つ道具

糸巻き＝糸の張りを調整する

ギターのネックとボディに近い形をイメージすると分かりやすいです。

ポイント

- 三味線は、棹・胴・撥という3つの主要部分でできています。
- 胴には、動物の皮や合成の皮が張られています。
- 棹にはフレット（段差）がなく、なめらかな一本の棒になっています。

やってみよう

- ギターなど、他の弦楽器の各部の名前を調べて、三味線とくらべてみよう。

書いて覚えよう

3本の糸

三味線には、太さのちがう3本の糸があります。

一の糸

いちのいと

いちばん太く、低い音の糸

二の糸

にのいと

真ん中の太さの糸

三の糸

さんのいと

いちばん細く、高い音の糸

ポイント

- 三味線の3本の糸は、太さがそれぞれちがいます。
- 太い糸ほど低い音、細い糸ほど高い音が出ます。
- この3本の組み合わせで、幅広い音の表現ができます。

やってみよう

1. 太い輪ゴムと細い輪ゴムをはじいて、音の高さのちがいを確かめてみよう。

書いて覚えよう

弾く前の準備を知ろう。

ばち

糸を打ったりはじいたりする道具

かまえ

楽器に向かう姿勢

- 撥は、右手でしっかりと、力みすぎずに持ちます。
- 胴を右のひざの上にのせ、棹を斜め上に向けて構えます。
- 左手は棹をそえるように持ち、指で糸を押さえられるようにします。

1. 正しい構えをイメージしながら、右手・左手の役割を書いてみよう。

勘所（かんどころ）

三味線の棹には、目印がありません。

ポイント

- 勘所（かんどころ）とは、左手の指で糸を押さえる位置のことです。
- 三味線の棹には、ギターのようなフレット（段差）がありません。
- 勘所は目印なしで覚えるため、耳と指の感覚がとても大切になります。

やってみよう

1. 目印がない場所で正確な位置を覚えるには、どんな練習が良いと思いますか。

ワンポイント 同じ勘所でも、少しずれるだけで音の高さが変わります。練習を重ねて、指に感覚を覚えさせます。

書いて覚えよう

調弦（本調子など）

曲によって、糸の音の高さを変えます。

代表的な調弦

本調子（ほんちょうし）

二上がり（にあがり）

三下がり（さんさがり）

曲の雰囲気に合わせて、調弦を使い分けます。

ポイント

- 演奏の前に、3本の糸の音の高さを調弦（音合わせ）で決めます。
- 「本調子」は基本となる調弦で、そこから「二上がり」「三下がり」など変化させます。
- 調弦がちがうと、同じ弾き方でも曲の印象が変わります。

やってみよう

1. 同じ楽器で、音の高さの組み合わせを変えると印象が変わる例を他に知っていたら書こう。

書いて覚えよう

ばちの打ち方・すくい・はじき

撥や指で、いろいろな音を出してみよう。

すくい

すくい

撥を下から上にすくい上げて弾く

はじき

はじき

左手の指で糸をはじいて音を出す

ポイント

- 三味線は、撥で糸と皮を一緒に打つことで、はじけるような音を出します。
- 「すくい」は、撥を下から上へすくい上げる弾き方です。
- 「はじき」は、撥を使わず、左手の指で糸をはじく奏法です。

やってみよう

1. 上から打つ音と、すくい上げる音、どちらが力強いと思いますか。

書いて覚えよう

三味線の楽譜（文化譜）

三味線には、独自の楽譜があります。

文化譜の特徴

三味線の楽譜の代表的なものが「文化譜（ぶんかふ）」です。

横に引かれた線の上に数字が書かれ、その数字が勘所（押さえる位置）を表します。

五線譜とはちがう、日本独自の記譜の工夫です。

ポイント

- 文化譜は、大正時代につくられた、三味線のための楽譜です。
- 数字は勘所（左手の位置）を表し、線は糸（一の糸・二の糸・三の糸）を表します。

やってみよう

1. 数字と線を使った楽譜は、どんな点が便利だと思いますか。

書いて覚えよう

棹の太さによって、音も曲も変わります。

棹の太さによって、音も曲も変わります。

11

長唄と三味線

長唄は、細棹の三味線とともに歌われます。

長唄

ながうた

歌舞伎とともに発展した歌と三味線の音楽

細棹

ほそざお

長唄で使われる、細い棹の三味線

ポイント

- 長唄は、歌舞伎の舞台音楽として発展してきました。
- 細棹の三味線を使い、明るくすっきりとした音で歌にそえます。
- 代表的な曲に「勧進帳（かんじんちょう）」などがあります。

やってみよう

1. 歌舞伎という言葉を、家の人に聞いたことがあるか話してみよう。

書いて覚えよう



民謡って、三味線の音と一緒に聴くことが多いね。

太鼓や歌と合わせて、にぎやかな雰囲気になるよね。

- 日本各地の民謡は、中棹の三味線とともに歌われることが多いです。
- 三味線が伴奏をつけることで、民謡のリズムがより生き生きとします。
- 地域によって、三味線の弾き方や調弦にも特徴があります。

1. 知っている民謡があれば、名前を書いてみよう。

津軽三味線

津軽三味線は、力強く自由な演奏が魅力です。

ポイント

- 津軽三味線は、青森県の津軽地方で生まれた、太棹の三味線の演奏スタイルです。
- はげしく撥を打ちつける、力強い演奏が特徴です。
- 決まった形だけでなく、演奏者が即興的にくずして弾くこともあります。

やってみよう

1. 「力強い」「自由」という言葉から、どんな演奏の様子を想像しますか。

ワンポイント 代表的な曲に「津軽じょんがら節」があり、今も多くの演奏家に受けつがれています。

書いて覚えよう

三味線の音色

三味線には、独特のうなるような響きがあります。

さわり

さわり

一の糸が特別な仕掛けにふれて生まれる、うなるような響き

ポイント

- 三味線の音には「さわり」とよばれる、うなるような独特の響きがあります。
- これは雑音ではなく、三味線らしい魅力として大切にされています。
- 撥で打つ音と、糸の響きが重なり合って、はじけるような音色になります。

やってみよう

1. 「うなるような響き」を、声で表現するとどんな音になりますか。

書いて覚えよう

歌舞伎の舞台とともに発展した、長唄
の代表曲

津軽三味線の代表的な演奏曲

北海道の民謡。三味線と太鼓で演奏されることが多い

ポイント

- 三味線の曲には、歌舞伎とともに生まれた曲や、地域の民謡があります。
- 同じ三味線でも、曲のジャンルによって弾き方や雰囲気が大きくちがいます。

やってみよう

1. 上の曲の中で、聴いてみたいと思ったのはどれですか。

書いて覚えよう

三味線の手入れ

皮を張った楽器は、ていねいな手入れが必要です。

ポイント

- 三味線の胴に張られた皮は、湿度の変化にとっても敏感です。
- 使ったあとは、やわらかい布で撥や胴をふいて、汗や汚れを取ります。
- 直射日光や、湿気の多い場所での保管はさけます。

やってみよう

1. 湿度に弱い物を、身のまわりで他に知っていたら書こう。

ワンポイント 皮が破れやすいのは三味線の弱点でもあります。その分、演奏者は大切に扱います。

書いて覚えよう

三味線の魅力

鋭さとやわらかさ、両方をもつ楽器です。

ポイント

- はじけるような鋭い音と、うなるような響きを、両方持っています。
- 同じ楽器なのに、長唄・民謡・津軽三味線でまったくちがう表情を見せます。
- 撥を打ちつける演奏の姿も、三味線の見どころのひとつです。

やってみよう

1. 三味線のどんなところに魅力を感じますか。

書いて覚えよう

三味線で1曲

もし三味線を弾くなら、をイメージしてみよう。

弾いてみたいジャンル

理由

練習したい奏法

Ken の例

弾いてみたいジャンル 津軽三味線／理由 力強い音にひかれたから／練習したい奏法 はじき

ポイント

- ここまで学んだことをもとに、もし三味線を弾くなら、という想像をふくらませてみましょう。

書いて覚えよう

聴いてくらべよう

2つの曲を聴きくらべると、ちがいがよくわかります。

くらべるところ	曲A	曲B
速さ	速い・ふつう・ゆっくり	速い・ふつう・ゆっくり
音の強さ	強い・ふつう・やさしい	強い・ふつう・やさしい
感じ	_____	_____

ポイント

- 長唄と津軽三味線など、ジャンルのちがう曲を聴きくらべてみましょう。
- 同じ楽器でも、ジャンルによって音の印象が大きく変わります。

やってみよう

1. 長唄と津軽三味線を1曲ずつ聴いて、表を完成させよう。

書いて覚えよう

やってみよう・みんなで練習

まねっこ遊びで、リズムに親しもう。

- A (手拍子) タン・タン・タン・ウン
- B (まねして) タン・タン・タン・ウン
- A (撥を打つつもりで手を動かす) _____
- B (まねして) _____
- A (新しいリズムで) _____
- B (まねして) _____

ポイント

- Aが動きやリズムを出し、Bがまねをする「まねっこ遊び」です。
- 実際の楽器がなくても、手の動きだけで練習することができます。

ワンポイント うまくそろわなくても大丈夫。相手の動きをよく見て、合わせることを楽しみましょう。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきは、上達のサインです。

つまずき

よくあること

勘所が覚えにくい

目印がない棹

撥の力加減が難しい

強すぎたり弱すぎたり

調弦の種類が多い

本調子・二上がりなど

コツ

こうしてみよう

耳で音を確認める

位置よりも音を頼りに

小さく打つ練習から

力を入れすぎない

1つの調弦から覚える

少しずつ広げる

ポイント

- 最初からうまくいなくて当たり前です。少しずつ慣れていきましょう。

やってみよう

1. あなたがいちばんむずかしそうに感じるのはどれですか。 _____
2. 上のコツから1つえらんで試してみよう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

三味線の部分

☐ 棹

細長い柄の部分

☐ 胴

皮を張った箱の部分

☐ 撥

糸を打つ道具

奏法の言葉

☐ すくい

下から上にすくい上げる弾き方

☐ はじき

左手の指で糸をはじく奏法

☐ さわり

うなるような独特の響き

棹の種類

☐ 太棹

太くて重い、力強い音

☐ 中棹

中くらいの太さ

☐ 細棹

細くて軽い、明るい音

ジャンルの言葉

☐ 長唄

歌舞伎とともに発展した音楽

☐ 民謡

地域に伝わる歌

☐ 津軽三味線

力強く自由な演奏スタイル

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。

書いて覚えよう

三味線の名曲を1曲探して聴く

三味線の写真を見て各部の名前を確認
する

一の糸・二の糸・三の糸を声に出す

撥を持ったつもりで手を動かす

気になる三味線の曲を1つ調べる

三味線ノートに気づいたことを書く

- 1回5分でも、毎日続けることがいちばんの力になります。

発表してみよう・感想を書こう

気になった奏法や曲を、人に伝えてみよう。

気になった奏法・
曲

音色の感じ

練習してみたいこ
と

伝えたい人

Emma の例

気になった曲 津軽じょんがら節／音色の感じ 力強くて心が動いた／練習してみたいこと すくい／
伝えたい人 家族

感想を3文で書こう

① 三味線の音は、～な感じがしました。② とくに、～のところが印象に残りました。③ それ
は、～だからです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

三味線の世界は、ここからどんどん広がります。

もっと知りたい人へ

図書館で

三味線の本や楽譜を探す

演奏会へ

三味線の演奏会に行く

動画で

撥の動きを見る

次のステップ

尺八・篠笛

三味線と合わせる管楽器

民謡

三味線とともに歌われる歌

和太鼓

三味線と合わせる打楽器

ポイント

- この教材の次は、和楽器の管楽器、尺八・篠笛について学んでいきます。

書いて覚えよう

三味線チャレンジ

教室の外でも、三味線の音にはすぐ出会えます。

見つけよう

三味線の音が流れている場所や映像を
探す

聴こう

民謡か津軽三味線の曲を1曲聴く

言おう

一の糸・二の糸・三の糸を声に出して
言う

こたえ

L26 撥→オ 勘所→エ さわり→ア 文化譜→イ 津軽三味線→ウ 2.
3本 / 太棹

L33 (例) 3本の糸を、大きな撥ではじいたり打ったりして演奏する日本の弦楽器。

書いて覚えよう

三味線 (Season 7 | No.64)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。